

産学協力研究委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開第 189 委員会」
特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）
「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物」
平成 28 年度 第 2 回編集会議 議事抄録

日時：平成 28 年 12 月 7 日（水）11：00-13：00

場所：ステーションコンファレンス東京 4F 401

出席者：長田 裕之(理化学研究所) 上村 大輔(神奈川大学) 永野 栄喜(住友化学株)

掛谷 秀昭(京都大学) 町谷 幸三(日本農薬株) 【敬称略】

事務局：

平野 弘之(理化学研究所) 大高 潤之介(理化学研究所) 山口 直美(理化学研究所)

(学界委員 7 名 産業界委員 2 名 随伴 1 名)

議事内容：

○第一回編集委員会の方針について

出版社 Springer JAPAN から提案されている「生理活性物質のエンサイクロペディア」の作成が計画されていた。

○特別事業は刊行物となることが必要であり、データが集積された 3 年後には刊行物(書籍)とすることが求められている。期間も限られており作成には早く取り掛かる必要がある。(上村委員)

○今回シュプリンガーとネイチャーが合併しシュプリンガー・ネイチャー (Springer Nature) となったため同社担当より説明を受けた。

「生理活性物質のエンサイクロペディア」の提案は Springer Nature の Major Reference Works(MRW)の一環であり、同社 Handbook につぐ利用がある。

執筆メンバー、編集者メンバー、セクション担当などの設定で MRW が利用できるというメリットが説明された。

○説明後、Online で執筆することができるというメリットはあるが、本事業の「知識や技術の伝承等とりまとめ」刊行物(書籍)を作製することとは目的がそぐわないことも明らかとなった。

○シュプリンガー・ネイチャーが関係した書籍として”Bioprobes: Biochemical Tools for Investigating Cell Function”がある。著者には委員会メンバーも参加しており、近く改訂版が発行される予定となっている。この書籍執筆のため生理活性物質の文献情報など資料をとりまとめているが、この資料を委員会活動のために利用できるかシュプリンガー・ネイチャー担当に確認した。JSPS 委員会活動のために利用するのであれば可能であるとの回答を得た。

○本事業編集委員が中心となり、(次回 委員会 3 月 1 日までに)注目すべき生理活性物質についての記載様式を設定、189 委員会の各専門分野のメンバー、寄稿を希望する研究者にも執筆依頼する。